

乳児に対する CPR スキルテストのチェックリスト



受講者氏名 _____ テスト日 _____

シナリオ:「公園で乳児を乗せたベビーカーを押しているときに、乳児の様子がおかしいことに気がきました。近くに電話はありません。周囲が安全であることを確認し、乳児をベビーカーから抱き上げました。その次に何を行うかを実演してください。」

評価と通報

- 反応の有無を確認する 大声で助けを呼ぶ 呼吸を確認する

『受講者が助けを求めたら、インストラクターは「周囲に助けてくれる人はいません」と言う。』

CPR のサイクル 1 (30:2) *正確を期すため CPR フィードバック装置の使用が望ましい

乳児に対する胸骨圧迫

- 質の高い胸骨圧迫を実施する*:
- 乳児の胸郭の乳頭間線のすぐ下に 2 本の指を置く
 - 15 秒以上 18 秒以内で 30 回の圧迫
 - 胸の厚みの少なくとも1/3または約 4 cm 沈み込むまで圧迫する
 - 圧迫するたびに胸が完全に戻る

乳児に対する人工呼吸

- 感染防護具を使用して人工呼吸を 2 回行う:
- 1 回の人工呼吸には1秒かけて行う
 - 人工呼吸 1 回ごとに目に見える胸の上がりを確認する
 - 10 秒以内に 2 回の人工呼吸を行う

CPR のサイクル 2 (サイクル 1 の手順を繰り返す) 『手順を正しく実施した場合にのみチェックマークを付ける』

- 質の高い胸骨圧迫を 30 回行う 効果的な人工呼吸を 2 回行う

CPR のサイクル 3 (サイクル 1 の手順を繰り返す) 『手順を正しく実施した場合にのみチェックマークを付ける』

- 質の高い胸骨圧迫を 30 回行う 効果的な人工呼吸を 2 回行う

『インストラクターは「胸骨圧迫 30 回と人工呼吸 2 回のサイクルを 5 回終わりました」と言う。』

緊急対応システムに出動を要請する (119 番通報)

- 119 番通報をするため現場を離れる必要があることを声に出して言う

テスト終了

インストラクターのメモ

- 受講者が正しく実施した各手順の隣にあるボックスに ✓ を記入する。
- 受講者が正しく実施できなかった手順がある (空欄のチェックボックスが少なくとも 1 つある) 場合、受講者は補習を受けなければならない。補習を必要とするスキルについて、ここにメモしておくこと (補習については、インストラクターマニュアルを参照)。

テスト結果 合格または要補習にチェックを付けて合格か補習が必要かを示す:

合格 要補習

インストラクターのイニシャル _____ インストラクターID _____ 実施日 _____

乳児に対する CPR スキルテストの重要なスキルの説明

1. 30 秒以内に乳児を評価し, 救急対応システムに出動を要請する(胸骨圧迫開始前に行わなければならない)。周囲の安全を確認したら, 以下のことを行う。
 - 傷病者を軽く叩き, 大声で反応の有無を確認する
 - 大声で助けを呼ぶ
 - 呼吸をしていないか, あるいは普段どおりの呼吸をしていないか(死戦期呼吸のみ)を確認する
 - 5 秒以上かけて頭部から胸部を観察する(ただし 10 秒以上かけてはならない)
2. サイクル 1:質の高い胸骨圧迫を行う(心停止を認識したら直ちに圧迫を開始する)
 - 胸部中央の正しい位置に指を置く
 - 乳頭間線のすぐ下に 2 本の指を置く
 - 圧迫のテンポは 100~120 回/分
 - 15~18 秒間に 30 回の胸骨圧迫を実施する
 - 圧迫の深さと胸の戻り - 胸の厚みの少なくとも1/3, または約 4 cm 沈み込むまで圧迫する
 - 市販のフィードバック装置/マネキンの使用を強く推奨する
 - 圧迫を行うたびに胸が完全に元に戻るまで待つ
3. サイクル 1:感染防護具を使用して人工呼吸を 2 回行う
 - 気道を十分に確保する
 - 頭部後屈-顎先挙上法を使用する
 - 1 回の人工呼吸は1秒かける
 - 人工呼吸は胸の上がりを目で確認できるように行う
 - 過換気を避ける
 - 10 秒以内に胸骨圧迫を再開する
4. サイクル 2:サイクル 1 と同じ胸骨圧迫と人工呼吸の手順を行う
5. サイクル 3:サイクル 1 と同じ胸骨圧迫と人工呼吸の手順を行う